

やまぐち の 自治

Vol. 124 2019. 5



宇部市・吉部(きべ) 『画 岡本 正和』

巻頭コラム⑧ 有権者のいない投票所・候補者のいない選挙区 立山純毅
県内中山間地域にみる住民主体の地域づくり 山本善積

【自治体現場は、いま】会計年度任用職員制度で自治体非正規職員はどうなる？

—「改正」地方公務員法等の概要— 中野敏彦

《新・地域からの便り》⑥萩を「亡国の街」にしてはならない

—イージス・アショア配備計画はなぜ撤回しなければならないのか— 森上雅昭

面白くて為になる山口弁四方山話⑨ 森川信夫

人柄は清廉潔白 —中司哲朗さんを悼んで— 福谷 進

【本の自己紹介】えんぴつ・ペン画 スケッチノート No.28 岡本正和

【本の紹介】『なぜ必敗の戦争を始めたのか』『メディア、お前は戦っているのか』

編集室の風景⑪「言い得て妙」

自治体あれこれ

山口県地方自治研究所

萩を「亡国の街」にしてはならない

— イーリス・アショア配備計画はなぜ撤回しなければならないのか —

森上 雅昭（もりかみ まさあき）

（イーリス・アショア配備計画の撤回
を求める住民の会代表）

— むつみには「水の番人」がいる —

— 陸上自衛隊むつみ演習場の近くに『羽月の名水』があります。

説明板には、「戦国武将の名馬、生月（いけづき）の出生地」と伝えられる羽月にあり、二百町歩の溶岩台地東台を大濾過層とし、こんこんと湧き出る泉は質量ともに一年中変わることのない清水で、古くから『羽月の名水』として親しまれております。「湧水箇所：中橋、羽月、安附、正木、吉部市、大原、毛木、殿川、深谷、平ヶ重」と誇り高い文章が記されています。

演習場には、その他、見廻り溜池、熊田溜池などが隣接しています。昨（2018）年1月の雪の降る日、むつみを訪れた私に、何人かの人が「水への影響が一番心配だ。むつみには「水の番人」がいるので、その人に話を聞いたらいい」と、アドバイスしてくださいました。—

2019年3月18日、「むつみ演習場周辺の水・環境に関わる地元住民一同（6団体85名、発起人は大田一久さん）」が、防衛省中国四国防衛局と萩市に対して、申し入れを行いました。

その内容は7項目あり、「むつみ演習場周辺の自然環境に影響がおよぶことを一切しないでいただきたい」と題し、①湧水の水質、湧水量に影響がおよぶことがあってはならないこと、②貯水池の水質、貯水量に影響がおよぶことがあってはならないこと、③湧水の池と貯水池に濁水やごみが

流入することがあってはならないこと、さらに④林地に土砂の流入があつてはならないこと、というものでした。

この申し入れを行った6団体は、羽月湧水地元利用者（26名）、見廻り溜池地元用水利用者（9名）、むつみ演習場隣地所有者（5名）、中郷頭首工組合¹（12名）、市上水利組合（21名）、景原土地改良共同施工（12名）です。

申し入れ書には全員の署名捺印があり、賛同者として私も署名捺印しました。この『申し入れ書』は、むつみ住民の真剣な“自治の宣言”です。

ところが、その2日後の3月20日、防衛省は「イージス・アショアの配備に係る各種調査の履行期限変更」を急遽発表しました。そして、岩屋防衛大臣は「5月中にも適地調査の結果を発表する」と発言しました。

住民の会は、むつみ住民の皆さんと共に、萩市むつみ総合事務所2階農事研修室において、昨（2018）年11月から今（2019）年4月17日まで毎月、計6回にわたり、防衛省中国四国防衛局に申し入れを行なってきました。

しかし、防衛省は4月25日、「5月20日の申し入れの設定は行えない」と連絡してきました。そして、翌4月26日、防衛省はイージス・アショア2基を取得するため、本体購入費の一部として、約1,399億円を支払う契約を米政府と交わしました。

—むつみ住民の申し入れの経緯—

昨（2018）年4月28日、春暖の日、むつみコミュニティーセンターで電磁波専門家の荻野晃也さん（元京都大学工学部原子核工学教室講師）の講演会を開催し、同時に演習場を1周するフィールドワークも行い、120名以上の参加がありました。

6月1日には防衛省の大野政務官が山口県庁を訪れ、村岡知事、藤道萩市長、花田阿武町長らと面会、イージス・アショア配備計画を発表しまし

¹ 頭首工とは…川に流れる水を農業用水として水路に引き込むために設ける堰や取り入れ口をまとめたもの。頭首工という名前は、水の流れを人間の体に例えた場合、水路は体の末端である手足、大元である頭首工は頭や首というところからきている。

た。これを機に、各地で住民説明会が始まりました。

また、この計画がにわかに緊迫し始めた6月13日、『羽月の名水』横の羽月公会堂で、住民懇談会を開いたところ、即刻、6月15日、萩市への申し入れをすることが決まりました。これが、萩でのイージス・アショア配備計画の撤回を求める、最初の住民懇談会と申し入れとなりました。

その後、7月2日、阿武町宇生賀（うぶか）の住民と共に、阿武町と萩市に配備計画の撤回を求める申し入れを行いました。

この申し入れを契機に、7月7日、七夕の日、「イージス・アショア配備計画の撤回を求める署名」活動をスタートしました。

さらに、地元の方々の協力により、むつみの国道・県道沿いの10カ所に、[ミサイル基地イージス・アショア配備撤回]の立て看板を立てることもできました。

写真：見廻り溜池のフィールドワーク
（対岸は陸上自衛隊むつみ演習場）



7月28日、むつみコミュニティーセンターで、大田啓一さん（むつみ出身、元滋賀県立大学学長、環境化学専門）を講師として、現地懇談会を開催しました。120名以上の参加者を得て、水文学、水の年代測定、水の循環などを学び、電磁波に続く「水の理論と運動」が始まりました。

9月7日、萩市役所において、第一次署名（総数13,144筆）を提出することができました。

9月26日には、萩市むつみ（合併以前は、むつみ村）で集まった署名が有権者数、世帯数とも過半数になりました。萩市高俣地区（高佐上、高佐下、片俣）と吉部地区（吉部上、吉部下）を一軒一軒訪ね、地元の思いを聞きながら署名していただきました。とりわけ、地元の協力により、演習場に近い高俣地区の署名数は95%以上となりました。

「人々が大切にしてきた火山の恵みの水源が、イージス・アショア配備という大規模土木工事で深刻な被害を受けることに絶対反対だ」「補償や条件交渉ではなく、切実な配備計画撤回の思いだ」等々の声がよせられ、私たちの励みになりました。

10月20日、平和のひろば（むつみ総合事務所2階多目的ホール）では100名以上の参加があり、それに続き、10月28日の「水めぐり平和パレード」では計画撤回を訴えて、『羽月の名水』からスタートし、演習場まで「むしろ旗」を掲げて歩きました。車列パレードも同時に行い、200名以上の参加がありました。

11月23日、萩市内での平和パレードでも、先頭は「むしろ旗」でした。「農業・漁業・畜産業・林業をおろそかにしては、人間社会はなりたない」という地元の人達の強い思いに賛同する人々の集まりとなりました。

うれしいことに、今（2019）年2月23日、第3回平和パレードの参加者は、昨（2018）年のパレードをさらに上まわり、小さなお子様連れの方や若い人の参加が目立ちました。

一萩を「亡国の街」にしてはならない

イージス・アショアの適地調査に係る防衛省の説明は「影響が出ないようにします」など、電波物理学、水文学、地盤工学などに即さない非科学的な説明に終始しています。

昨（2018）年12月2日からの旧萩市内での戸別訪問署名は、昨（2018）年9月のむつみ住民の署名が過半数ということにふまえ、萩市住民の皆さんの本当の声を知りたいと思い、始めました。

「国民の税金を払い、アメリカの利益とアメリカ本土防衛だけのために、萩を亡国の街にしてはならない」「日本を平和外交のできる国にしなければならない」「日本列島のどこにもイージス・アショアを配備してはならない」「萩は必ず攻撃の的にさらされる」等々、萩市の住民の皆さんは真剣に考えておられます。

一方で、最近、「萩は賛成が多い」「演習場近くのむつみ住民の反対は一部だけ」などの、地域を比較し、住民の分断を図るネガティブ・キャンペーンが始まっていることも事実です。

しかし、本（2019）年4月20日、晴天下、萩市民館小ホールに330人以上が集い、山口大学経済学部教

授（憲法学）の立山紘毅さんのトークと、東京新聞社会部記者の望月衣塑子さんの講演会を開催し、防衛省の5月発表を迎え撃つ結集を実現することができました。

5月8日、萩市役所2階第一会議室において、「イージス・アショア配備計画の撤回を求める署名」の第二次提出を行いました。総数は2万2,000筆を超え、そのうち萩市での署名は5,000世帯を越えました。

さらに、6月15日（土）午後1時30分から、サンライフ萩・多目的ホールにおいて、イージス・アショア配備計画の撤回を求める住民の会、カトリック広島教区、日本カトリック正義と平和協議会改憲対策部会の3団体共催で、軍事評論家の前田哲男さんの講演と萩市内パレードを予定しています。

皆様のご賛同とご参加を心よりお願い申し上げます。

（住民の会のHP：noaegis2.wixsite.com/noaegis）



講演する望月衣塑子さん

追記 5月20日、午前11時から、萩市むつみ総合事務所2階農事研修室において、防衛省中国四国防衛局への申し入れを行いました。

申し入れには、新たに「須通り溜池関係者一同」が加わり、「むつみ演習場周辺の水・環境に関わる地元住民一同」は、7団体91名に拡がりました。防衛省は、5月17日、「イージス・アショア」の配備候補地である秋田、山口両県に対し、「配備に適しているとの調査結果を伝達する」方針を固め、地元の理解を得た上で、最終決定すると発表しました。

しかし、防衛省による『適地調査結果』の説明資料を公表しないままでの「適地伝達」という説明は、地元住民の理解を得ていない、未だ防衛省だけの主観的な判断です。防衛省は、住民の前に、早急に『調査結果』をホームページで公表し、科学的で客観的な議論に付すべきことを申し入れました。

(2019年5月20日)

